



帝塚山地域には、恒例化しつつあるいくつかの大きな行事がある。

毎年一月下旬に行われる帝塚山街づくり交流会(略称T.M.K.)主催の新年互礼会が一年のスタートだろう。次に続く各実行委員会による行事は、五月の「阿部野新能」と「帝塚山音楽祭」、そして八月の「帝塚山まつり」、十一月の「帝塚山カップゴルフ選手権大会」となる。

今年も五月の「帝塚山音楽祭」は六万人超の動員で大盛況に終わった。そして早くも八月の「帝塚山まつり」や十一月の「帝塚山カップゴルフ選

街づくり20年(下)

10年偉大なり、
20年畏るべし、
30年にして歴史なる

帝塚山街づくり交流会・ウジタオー
代表取締役

氏田 耕吉



手権大会」に向けて、各実行委員会は準備を始め

昨年六月、T.M.K.主催で「街づくり二十周年を祝う会」を催した。長い年月を経た街づくり活動に携わった人たちが百人予定の貸し切り会場は、定員オーバー、人であふれた。こんなに多くの方々に集まっていただけたのは何だったのか。そう、皆さん「街に惚れ(ほれて)いる」のだろう。

かつて、亡父の結婚式での祝辞を母親から教えてもらったことがある。それは「男の三惚れ(つまり)住む所に惚れ、仕事に惚れ、女房に惚れよ」と

いう話だった。自分が生活や仕事をすゝむ、その場所に惚れることは素晴らしい。そう思えばこそ、この時もたくさんの人々が集まられたのだと思う。人前で自信を持ってこのスピーチをしていた父親を誇らしく思っている。

もうもろの行事については、わたしは消化型運営は好きではない。常に参加したくなるような企画を、協力したくなる運営で進めたく思っている。しかし、実はこれが大変難しい。

かつて、イエローハット創業者の鎌山秀三郎さんから「十年偉大なり、二十年畏(おそ)るべし、三十年にして歴史なる」と教えていただいた。

この「街づくり活動」も初めのころはどうなるものかと思っていたが、十年で形は出来上がった。そして二十年、これはまさに「畏るべき」とだ。しかし、三十年にして「歴史」となり、続くためには次代を担う人

たちが必要だ。世の常かもしれないが、各実行委員会で、この後継者問題に苦慮している。

帝塚山まつりの「子供みこし」や「子供だんじり」も二十年たち、数年前から、その子どもたち「帝塚山青年団」が自然発生的に生まれた。さらには「帝塚山青年塾」もできて、実社会をテーマに人生塾のような自主勉強会も始まっている。これもまさに十年単位での活動になりそうだが、継続していかねばならない。

今まではわれわれの世代が街づくりの第一線で活動してきたが、これからは、その次世代に自ら活動する若者を育てる役割をせねばならない。それこそが三十年という歴史をつくり、また、さらなる継続を可能にする。長い歴史を望むならば、年齢とともに役割を変え、交代する時期が必要だ。

「人生二度なし」(森信三)、人として生きた証しを刻むためにも、次の街づくり活動に向かいたい。只管感謝。

(うじた・こうきち
大阪市阿倍野区帝塚山)

この欄に対する感想(400字以内)をお寄せください。採用、掲載分には図書カードをプレゼントします。『海標』編集部